

大政紀要

第六十卷

一函	架	九六册	一〇類
----	---	-----	-----

大政紀要下編	
職	官
卷	第三
関	校
	草起
	小野正弘

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	32-5
	① 59

大政紀要下編

官職三

外務省ハ外國交際ノ事務ヲ管理シ。外國ニ駐在  
 セル我交際官吏ヲ監督シ。以テ國權ヲ保持ス  
 ルノ所トス。公信局、取調局、記録局、庶務局、會計  
 局、検査課、書記課ヲ置キ。各其主務ヲ幹理セシ  
 ム。卿一人、大輔、少輔、正權、大少書記、官一尋ヨリ  
 十等ニ至ル属官ヲ置ク。餘ノ九省皆同シ。諸省  
 其職務權限ヲ明ニス。後ニ載ス。但本省卿ハ別  
 ニ外國ニ對スル勅書ニ署名押印スルノ制トス。

又持命全權公使、辦理公使、代理公使、總領事、領事、副領事、書記官、書記生、貿易事務官ヲ置ク。公使ハ外國ニ駐在シテ、外務卿ノ指揮ヲ受ケ、其國ト我國ト、交際事務ヲ擔任ス。領事ハ外國ニ駐在シ、外務大藏西卿ノ指揮ヲ受ケ、貿易事務ヲ管理シ、兼テ我國人ノ其國ニ在留スル者ヲ保庇ス。書記官ハ公使ニ隨從シテ、庶務ヲ掌リ。書記生ハ公使領事ニ從テ庶務ヲ掌ル。是レヲ現行ノ制トス。

公信局ハ外國通商ニ關スル一切ノ事務ヲ調

理シ。我公使領事及テ臨時派出スル外務官員並ニ我國ニ駐在スル外國公使領事ト、本省ト、間ニ照會照覆スル信書等文案ヲ擬草スルヲ掌ル。取調局ハ條約ノ釋義、内外ノ法律、及テ萬國公法ニ關スル疑問ヲ調査シ、其他緊要ナル事件ニ關シ、其所見ヲ述ヘ、之ヲ外務卿ニ呈ス。記録局ハ内外諸信ノ受付、及テ配達、各國君主ノ批准國書、其他内外往復ノ公信書籍圖畫類ヲ保管シ、且ツ外交ノ顛末ヲ歷覽スヘキ史傳ヲ編輯シ、公文書冊ヲ印刷スルヲ掌ル。庶務

局ハ官記、勲章、旅券、儀式、賓客、接待、饗應本省  
及、在外公館、需用品供給、官舎、官繕、監護、  
官舎備要品、保管、修理及、給仕省丁馬丁等  
ノ進退使用ニ関スル一切、事務ヲ掌ル。會計  
局ハ本省及、在外公館、定額金及、收納金  
一切、出納事務ヲ掌ル。検査課ハ金銀出納ヲ  
監視シ。本省及、在外公館、經費簿ヲ検査精  
算スルヲ掌ル。書記課ハ常ニ外務卿ノ左右ニ  
侍リ。其指令ヲ承ケテ文案ヲ起草シ。時宜ニヨ  
リ直ニ之ヲ諸方ニ往復スルコトヲ掌ル。

公使ハ初ノ大中少辨務使ト稱ス。三年閏十月  
之ヲ置ク。外務大丞鮫嶋尚信ヲ少辨務使ニ持  
シ。英佛宇三國ニ駐劄セシメ。又少辨務使森有  
禮ヲ米國ニ駐劄セシメ。交際事務及、留學生  
ヲ管ス。之ヲ遣外使臣ノ始メトス。五年十月。今  
ノ名ニ改ム。此時留學生ノ事務ハ文部省ニ属  
ス。全權公使ノ官等ハ一等二等ノ内ニ班シ。初  
ニ等官トス。十五年ニ至リ。前參議寺島宗則議  
官淺野長勲等拜任セルニ因リ。具三月此制ニ  
改辨務公使ハ三等官ニシテ。代理公使ハ四等  
官トス。俸給ハ元々年ヲ以テ定ム。官等ニ拘ハ

ラス給額ハ別ニ費用條例アリ。一般ノ官吏ト  
 異ニス。今尚ホ此制タリ。遣外使臣訓令職制ノ  
 畧ニ定ムル所。曰ク。天皇陛下ヨリ外國君主、  
 及テ統領ニ與フル信書ヲ齎帶セル特命全權  
 大使、特命全權公使、辯理公使、及テ外務卿ヨリ  
 外國ノ外務ヲ総理セル大臣ニ與フル信書ヲ  
 携持セル常任ノ代理公使、及テ公使ヨリ信書ヲ  
 交付セル臨時代理公使ヲ總ヘテ交際主任ノ  
 官トス。其書記官ヲ補佐書記ノ官トシ。書記生  
 以下ハ之ニ次キ。共ニ其附屬官ツリ。又各等ノ

使臣ハ。前項ニ列スル信書ノ外。天皇陛下若ク  
 ハ政府ヨリ外國君主、統領及ヒ臣民ニ對シ。別  
 ニ商辦スルハキ事件アルトキ。其委任状ヲ受ク  
 ヘレト。

領事ハ。四年十一月始メテ之ヲ置ク。此時貿易  
 漸ク進歩シ。海外通商ノ者日々ニ多シ。因リテ  
 本省、省ヲ候シ。各國ノ制ニ倣ヒ。此官ヲ設ク。初  
 メ總領事、五等領事、六等副領事、七等代領事、八  
 等トス。六年二月代領事ヲ廢シ。十年九月總領  
 事ヲ四等領事ヲ五等ニ陞セ。副領事ヲ八等ニ

降。十四年十一月。又領事ノ官等ヲ改ム。五等ヨリ七等ニ相當シ。總領事、副領事ハ舊ニ仍ル。此制令ニ至ル。十五年一月。治外法權ノ締約國ニ駐在セル領事ハ判事或ハ判事補ヲ兼ヌルノ制ヲ定ム。又清國上海及ヒ朝鮮國諸港ニ駐在セル領事ハ郵便事務ヲ兼掌スル者トス。領事官訓令ノ畧ニ曰ク。外國ニ領事官ヲ置クノ主意ハ航海貿易工業上ニ在リ。日本人民ノ權利利益ヲ保護擴張スル所以ニシテ。其事ヲ執ルヤ。法律及ヒ條約ニ從ハサルヘカラス。故ニ

領事官タル者ハ其諸法規諸條約並ニ駐劄ノ國及ヒ其地方ノ商法慣例ヲ通知スルヲ要ス。此他該地方ニ就テ日本政府ヨリ命セル諸般ノ事務ヲ幹辦スルハ亦其任トス。其朝鮮國ニ在ル者ハ總領事及ヒ領事。其在留地方ノ長官ト事ヲ議シ。文書ヲ往復スル。總ハテ對等ノ禮ヲ用ユハレ。ホク公使ヲ京城ニ置カナルノ間ハ談國ト交際ニ関スル諸件。總領事ヲシテ之ヲ管セシム。故ニ每事宜シク彼我ノ情實ヲ酌量シ。和親修睦ニ歸スルヲ謀ルハシト。十一月一日



可。

貿易事務官ハ九年六月始テ之ヲ置ト。魯領  
 浦潮港ニ駐在セシム。特設ノ官タリト雖モ其  
 職務ハ領事ニ異ナルコト無レ。故ニ年俸其他  
 費用ノ支給法等皆其本官ノ等ニ應レ。領事ノ  
 例ニ依據ス。蓋シ浦潮港ハ新開ノ一港ニシテ。  
 漸次貿易ノ繁盛ナルヘキヲ以テ。權リニ此官  
 ヲ置ク者トス。後又本官ヲ瓜哇國ニ駐在セシ  
 ム。  
 書記官ノ職ハ初メ正權大少記アリテ。辨務使

ニ隨後ス。外務權大丞塩田篤信權大記ニ任シ。  
 權大録後藤常等權少記ニ任ス。之ヲ隨使書記  
 官ノ始メトス。五年十月大少記ヲ廢シ。書記官  
 ヲ置ク。一等ヨリ三等ニ分テ。官等五等ヨリ七  
 等ニ相當ス。書記生ハ大少記等ヲ廢スルニ至  
 リ。又之ヲ改置ス。初メ一等ヨリ八等ニ分テ。官  
 等八等ヨリ十五等ニ相當ス。後チ書記官ト共ニ  
 其改置一再ヲ經テ。十四年八月。總テ等級ヲ廢  
 シ。書記官ハ奏任。書記生ハ判任ノ官トス。是レ  
 即チ今ノ制ナリ。俸給ハ領事以下皆費用條例

ヲ以テ給スルコト公使ニ同シ。以上之ヲ外交  
常任ノ官トス。

蓋シ外交事務ヲ處スルノ官。本邦古ハ未ダ專  
任ノ廳有ラス。治部省ノ諸蕃朝聘ヲ管セル。蕃  
客接遇ノ職タルニ過キス。其之レ有ルハ。幕府  
外國奉行ヲ置クヲ以テ創始トス。然モ古制ニ  
在リテ。外使ノ來ル。太宰府之ヲ奏報シ。玄蕃寮  
之ヲ引接ス。外交ノ權。固ヨリ。朝廷ニ在リ。王權  
下移ノ後ニ至リ。鎌倉霸府ハ。猶能ク高麗使ノ  
入朝ヲ奏シ。旨ヲ候セリ。事ハ龜山天皇文永五  
年正月ニ在リ。

利義詮ノ專横。擅マ、ニ高麗王ノ書ヲ斥ケ。事

後村上天皇正平。前地武政私ニ明使ヲ接遇シ。後  
二十二年ニ在リ。

山天皇建。乃チ足利義満、明主ト往復スル。日

本國王、臣、源ヲ書スルニ至リテハ。復々言フニ

忍ヒカル者アリ。是ヨリ後織田、豊臣、徳川、皆擅マ

、ニ外人ヲ引接シ。而レテ玄蕃ノ職。永ク徒設

ノ官トナリ。外交ノ權。朝家ヲ去ル。亦久シ。徳川

慶喜ノ大政ヲ奉還スルニ至リテ。外國奉行ノ

事務。舉ケテ朝廷ニ歸シ。各國今日ノ交態。此ニ

緒ヲ開ク。抑幕府外交ヲ修ムルハ。蘭人ノ忠告



二動キ。墨使ノ脅迫ニ成ル。其國威ヲ毀損スル。  
 亦少小ニ非ス。天下ノ人心ヲ失フ。原此ニ在リ。  
 故ニ中興ノ初。政外交ノ事最モ難シトス。是ニ於  
 テ。外務省ノ任。復々往音ノ玄蕃察ニ非ス。乃チ  
 現今ノ制。本省ハ十省ノ首位ニ列セリ。  
 本省ハ。元年正月外國事務掛ヲ置クニ始マリ。  
 尋テ事務科ト為ル。三職分科ノ一タリ。二月。外  
 國事務局ト為リ。始メテ職制ヲ定メ。外國交際  
 條約、貿易、拓地、育民ノ事ヲ管ス。中興ノ初。政北  
 疆開拓ヲ以テ其主要トナス。外交官、拓地ノ職

二兼ヌル者亦之カ為ナリ。閏四月。外國官トナ  
 リ。太政官、七官ノ一ニ居ル。此時。議政官ノ制定  
 マリ。條約ノ事ハ之ニ屬ス。又地方三官ノ制定  
 タ。育民ノ字。府、縣官ノ職ニ嫌アルヲ以テ之ヲ  
 除ケリ。始メテ三等ノ譯官及ヒ譯生ヲ置ク。譯  
 官ハ。六等官ヨリ八等ニ至リ。譯生ハ九等トス。  
 中興ノ初。外交ノ難キヲ虞リ。其片言隻辭ノ誤  
 謬ヨリ國家ノ難事ヲ惹起スル者トレ。本官、特  
 ニ譯官ノ必用タルヲ建言シ。此ニ其等級ヲ定  
 ム。五月。本官ノ權限ヲ定メ。條約、開鎖、和戰、賞罰、

金銀等重要ノ事項ハ。太政官ノ裁ヲ仰キ。餘ハ悉ク委任セラレ。當時本官大坂ニ在リ。事々旨ヲ京師ニ候スル。殊ニ機宜ヲ失ハシコトヲ恐レ此命アルニ至ル。二年二月。通商司ヲ各開港場ニ置き。本官之ヲ管レ。貿易事務ヲ掌理セシム。尋テ五月。會計官ニ屬ス。初メ外國事務掛ノ吏員大坂ニ在リテ貿易ノ事ヲ周處ス。遂ニ因襲シテ。本司ヲ外國官ニ屬スルニ至ル。七月。外國官ヲ廢レ。本省ヲ建ツ。外國交際ヲ総判レ。貿易ヲ監督ス。此時開拓使ノ設ケアリテ。拓地ノ

事ハ之ニ屬ス。又譯官ヲ改置レ。之ヲ大、中、少ニ分チ。譯生ヲ廢ス。是月。領客使ヲ設ク。本朝古ハ此官アリ尋テ領客隨使及ヒ掌客ヲ置ク。英國皇子ノ來航ヲ以テ之カ接待ヲ命スルナリ。後チ復ク置カス。外賓アル毎ニ。接待掛ノ名ヲ以テ臨時之ヲ命スル者トス。三年二月。開港所規則、稅額等我邦未ダ一定ノ制アラサルヲ以テ。本省官吏ヲ派遣シテ之ヲ檢覈セシメ。因リテ其事務ヲ管ス。五月。文書司ヲ設ケ。譯官ノ稱ヲ廢レテ。本司ノ吏員ニ加フ。其意譯官ノ地位一定セルヲ

以テ。進級獎勵ノ便ナキニ因リ。更ニ一般官負  
 ニ列セシメ。勸誘ノ道ヲ開クト云フ。六月始メ  
 テ特例韓務使ヲ置ク。大藏大臣上野景範ヲ以  
 テ之ニ拜シ。新紙幣製造及ク國債處分ノ事ノ  
 為メニ。英國ニ派遣ス。本官ハ交際ニ関セス。特  
 ニ其事ヲ處辨スルカ為メニ設クル者トス。後  
 征臺ノ事ニ関シ。清國ノ紛議ヲ處スルカ為メ。  
 米入りセンドルヲ此官ニ命ス。今一々之ヲ舉  
 ケス。閏十月。大中、少辨務使及ヒ正權、大中、少記  
 ヲ置ク。本朝公使外邦ニ派在スルハ。此ヲ嚆矢

トス。條約訂結以來。各國公使、領事ヲ我國ニ派在  
 セシムル者。前後相踵テ至ル。方サニ國家多故  
 ニ屬シ。未タ我カ交際官ヲ遣ルニ及ハス。本年  
 小康ニ屬シ。此設ケアルニ至ル。四年二月。漢洋  
 語學所ヲ設ク。專ラ各港使用ノ通辨ヲ教養ス  
 ルカ為メナリ。大學中未タ開設ノ着手ニ至ラ  
 サルニ由ル。四月。欽差全權大臣ノ官ヲ設ク。清  
 國ト條約ヲ交換セシムルカ為メナリ。東洋諸  
 國互ニ條約ヲ結ビタルハ。曠古未有ノ盛事ト  
 ス。八月。官制ノ改定ニ因リ。文書司ヲ廢シ。其事

務各課ニ分管ス。是ヨリ本省寮司ノ名ナシ。又  
 各開港、開市場、稅務ヲ大藏省ニ屬ス。事務ノ分  
 劃漸ク明カナリ。十月。特命全權大使及「理事  
 官」ヲ設ケ。又隨行書記官ノ等級ヲ定ム。書記官  
 ノ官稱アルハ之ヲ始メトス。大使ノ設ケハ。條  
 約改正ノ事ニ關シ。歐米諸洲歴聘ノ為メニス  
 ル者トス。外務卿岩倉具視之ニ拝ス。理事官ハ。  
 各國ノ美事良法、我々各省ニ適用スヘキ者ヲ  
 分擔研究スルノ任トス。各省輔官、丞官、中之  
 ニ拝ス。爾後一事或ハ數事ヲ理スルカ為メ。屢

此官ヲ命セリ。今之ヲ畧ス。十一月。始メテ領事  
 ヲ置ク。五年五月。朝鮮國交際事務ヲ管ス。從來  
 嚴原藩ノ管理スル所。九月。琉球藩各國交際事  
 務ヲ管ス。談藩ノ我々版圖ニ在リテ。新タニ藩  
 王ト為ルニ由ル。十月。大中、少辨務使正權、大、少  
 記ヲ廢シ。更ニ特命全權公使以下ヲ置ク。是月。  
 又外務卿副島種臣ヨ以テ特命全權大使ニ拝  
 シ。清國ニ遣リ。同國ノ條約交換及「臺灣事件  
 ヲ商議セシム。六年二月。代領事ヲ廢ス。初メ領  
 事ト共ニ置ク所ハ等官タリ。五月。漢洋語學所

ヲ文部省ニ屬ス。七年七月。琉球藩事務ヲ内務  
 省ニ屬ス。藩治ハ内政ノ一部タルヲ以テナリ。  
 八月。始メテ辨理大臣ヲ設ク。臺灣處分ニ関シ。  
 清國ノ違言アルヲ以テ之ヲ辨理セシムルカ  
 為メナリ。内務卿大久保利通之ニ拜ス。後八年  
 十月。朝鮮國修好ノ事。及ヒ軍艦砲撃ノ事ヲ判  
 理セシムルカ為メ又之ヲ設ク。此時副大臣ヲ  
 置ク。參議黒田清隆大臣ニ拜シ。議官井上馨。副  
 大臣ニ拜ス。九年九月。本省ノ職制章程ヲ改正  
 ス。外國交際ノ事務ヲ管理シ。國內在留外國交

際官吏ヲ款接シ。内外交渉訴訟ヲ暢達シ。在外  
 我國人ヲ保護スルノ所トス。六月。始メテ貿易  
 事務官ヲ置ク。十月。又始メテ管理官ヲ朝鮮國  
 釜山ニ置ク。同國條約交換成ルニ由ル。十三年  
 二月。在朝鮮國管理官ノ稱ヲ廢シ。總領事以下  
 ヲ以テ之ニ命ス。蓋シ従前等級ニ拘ハラズ。總  
 テ管理官ト稱スルヲ以テ職制上障礙アルニ  
 因ルナリ。十二月。又本省ノ職制ヲ改メ。今ノ制  
 トナス。十四年八月。書記官、書記生ノ等級ヲ廢  
 シ。更ニ書記官ヲ奏任。書記生ヲ判任トス。以上

是レヲ本省職官ニ関スル沿革ノ概要トス。  
 本省長官ハ嘉彰親王、外國事務總裁ヲ始メ  
 トス。尋テ外國事務科ト為リ。晃親王ヲ以テ總  
 督ニ任ス。其事務局ト為ルニ至リテ。亦同親王  
 ヲ以テ督ニ任ス。外國官ノ時。伊達宗城始メテ  
 知事ト為リ。澤宣嘉之ニ代ル。本省ト為ルニ及  
 ンテ。亦澤宣嘉、卿ト為ル。爾後、岩倉具視、副島種  
 臣、寺島宗則、井上馨、相次テ之ニ代ル。以テ今ニ  
 至ル。

内務省ハ國內安寧人民保護ノ事務ヲ管理スル

ノ所トス。十三年十二月二日制定ノ内局、警保局、  
 地理局、戶籍局、社寺局、土木局、衛生局、図書館、會  
 計局、庶務局、取調局、監獄局、及、往復課、統計課、  
 ヲ置キ。各具主務ヲ幹理セシメ。又中央衛生會  
 ヲ管ス。卿輔書記官屬官ヲ置ク諸省ト同シ。但  
 本省卿ハ別ニ神官及、教導職ノ進退黜陟ヲ  
 管シ。其奏任以上ハ之ヲ具狀シ。判任以下ハ之  
 ヲ專行シ。兼テ地方奏任官ノ進退黜陟ニ関シ。  
 其意見ヲ上陳スルコトヲ得。

内局ハ本省府縣官吏ノ進退賞罰職務上ノ事



ヲ調査シ。句課ノ諸職ヲ審檢シ。及ヒ機密ニ係  
 ル一切ノ文書ヲ掌ル。警保局ハ。全國警察ニ関  
 スル一切ノ事務。並該官吏職務上ノ事ヲ掌ル。  
 地理局ハ。大度ヲ觀測シ。經緯度ヲ正シテ。全國  
 ヲ測量シ。府縣國郡區町村區域名稱ノ家分。地  
 籍地誌ノ編纂。地種地目ノ變換。官民有地ノ區  
 分。官用地ノ授受。其他土地ニ関スル事務。及ヒ  
 測候編曆ノ事ヲ掌ル。戶籍局ハ。戶籍ノ整理。人  
 口ノ調査。其他總テ人民ノ財産。及ヒ褒賞恤救  
 陸海軍恩賜ニ関スル事ヲ掌ル。社寺局ハ。社寺招

魂社教會講社等ノ事務。又ヒ神官教導職進  
 退ニ関スル事ヲ掌ル。土木局ハ。河港道路堤坊  
 橋梁等開築修營ノ事ヲ掌ル。衛生局ハ。公衆衛  
 生醫務藥製。及ヒ貧民救療等ノ事ヲ掌ル。圖書  
 局ハ。省中ノ公文。又ヒ年報ヲ編輯シ。刊行書或  
 ハ出版版權寫真版權。若シクハ獻本ノ褒賞ヲ  
 調理シ。又外國ノ信書新聞ヲ翻譯シ。弘ク古今  
 ノ圖書ヲ蒐藏スル等ノ事ヲ掌ル。會計局ハ。經  
 費收入ノ豫算決算。及ヒ金錢物品ノ出納。財産  
 ノ管理營繕等ノ事ヲ掌ル。庶務局ハ。府縣會規

則。區町村會法。備荒儲蓄法。戒嚴令。徵發令。請願規則等ニ関スル事。及ヒ府縣經費。并地方稅協議費。其他各局課ニ屬セサル省中一切ノ事務ヲ掌ル。取調局ハ。省中ノ文書回議。及ヒ締結スル契約書ハ。法規定例ノ適否ヲ議批シ。特ニ文按ヲ起草シ。又當省ノ詞訟ニ關係スル等ノ事ヲ掌ル。監獄局ハ。警視廳。各府東京府。各縣監獄。各集治監ニ固禁スル在監人ノ管束。其監獄ノ構造ニ係ル各廳ノ申請事項ヲ辨シ。司獄官吏ノ配置方法。及ヒ諸規則擬立改正ノ起草等ヲ掌

ル。往復課ハ。官廳來往ノ文書ヲ受付シ。人民上呈ノ請願書ヲ調査ス。統計課ハ。内務全省ノ諸統計書ヲ整頓シ。其様式ヲ審査若クハ改良シ。統計表ニ據リ事物ノ結果ヲ証明スルヲ掌ル。登記法取調局ハ。常置ノ局ニ非サルヲ以テ。局課ノ中ニ列セズ。但後ノ局課沿革ヲ登錄スルノ要ニ於テ。其名ヲ掲ク。中央衛生會ハ。全國衛生ノ事務ニ関スル諸件ヲ審議スルノ所ニシテ。内務卿之ヲ管理シ。整員十一名。化學家。工學家各二名。衛生局長。内務書記官。警保局長各一名。以上十八名ヲ以テ編成ス。之ヲ委負トス。初メ。衛生局長。内務書記官。警

察官各一名。都十三名ヲ以テ編成。會長及委員

ハ特選ニシテ。副會長ハ。委員中ヨリ投票ヲ以

テ之ヲ選定ス。會長ハ。本會議事ノ章程及ヒ附

則ニ從ヒ議事ヲ整頓シ。其議定セルモノヲ内

務卿ニ具申ス。副會長ハ。會長缺席ノ時。總テ其

事務ヲ代理ス。委員ハ。議事章程及附則ニ從ヒ

諸議案ヲ議スルヲ掌ル。書記數員ヲ置キ。議事

ヲ筆記ス。及ヒ文案計算翻譯等ノ事ヲ掌ラシ

ム。是ヲ本會ノ職制トス。維新以來。朝廷ノ衛生

事務ニ注意スル日亦久シ。元年十二月。醫學所

ヲ建テ。醫術ヲ考試スルノ制ヲ定メ。地方官ヲ

シテ醫師ニ論達セシムル者其創始タリ。三年

十二月。賣藥取締規則ヲ定メ。四年十月。種痘局

ヲ設ケ。免許狀及ヒ痘苗分與ノ方法ヲ定メ。六

年六月。文部省醫制調査ノ事務ヲ管シ。醫務局

ヲ置ク。其十二月ニ至リ。醫制ヲ編成ス。此際全

國醫師藥舖鑛泉及產出藥品ノ調査製藥賣買。

并ニ賣藥規則試藥場設立ノ方法。種痘規則等。

皆該省ノ漸ク起手スル所トナル。八年六月。本

省其事務ヲ受クルニ至リ。九年三月。事務施設

ノ方法ヲ協議セントシ。吏負ヲ各地方ニ派遣  
 シ。現時將來ノ目途順序等ヲ謀議セシム。五月  
 始メテ衛生局雜誌并ニ報告ヲ發行シ。十年虎  
 烈刺病流行ニ際シ。其八月豫防法心得ヲ發ス。  
 此時大ニ社會ヲシテ衛生事務ノ必要ヲ感セ  
 シメタリ。十一年五月。府縣衛生事務擔當吏負  
 ヲ撰定シ。之ヲ本省ニ申報セシム。十二年七月。  
 遂ニ本會ヲ省中ニ開クニ至レリ。其十二月。此  
 職制ヲ定メ。今仍ホ此法ニ仍ル。以上局課及ヒ會  
 議ヲ以テ本省組織ノ全體トナス。以上局課ノ掌務本  
 省ノ調査ニ據ル。

蓋レ内務省ノ名ハ。本朝古ハ未タ之有ラス。中  
 務省ノ稱ハ。甚メ相類レテ其實大ニ異ナリ。民  
 部省ハ。畧其質ヲ同フスルモ。其規模ノ大小復  
 タ同日ノ比ニ非ス。之ヲ概言スレハ。日本全州  
 ノ府縣ニ向テ民治ノ本廳タル者ハ。内務省是  
 ナリ。故ニ府縣ノ條例甚メ多シト雖モ。其細領  
 ハ之ヲ本省ニ統轄スル者トス。抑内政專管ノ  
 廳ハ。元年二月内國事務局ヲ置クニ始マリ。幾  
 テナク議政行政以下七官ノ制トナリ。本局ヲ  
 廢シ。其事務概テ會計官ノ所管ニ歸ス。本官中

民政司ノ設ケアリト雖モ未タ署ヲ開クニ及  
 ハスレテ罷ム。既ニシテ干戈漸ク跡ヲ歛メ内  
 治改良ノ機ニ際セルヲ以テ二年四月更ニ民  
 部官ヲ創建シ會計官ノ事務ヲ割屬シ大ニ内  
 國ノ政務ヲ更張ス。其職制府縣ノ事務ヲ總掌  
 スルニ在リ。戸籍、驛、橋道、水利、開墾、物産、濟貧、  
 養老等ノ事務具管スル所トス。聴訟、庶務、驛、  
 土木、物産ノ五司ヲ統管セリ。尋テ七月民政部  
 ト為リ。直ニ太政官ノ次大藏省ノ上ニ列シ。更  
 ニ租税ノ事ヲ管スルニ至ル。三年八月事務條

件ヲ定メ。民部十九條ノ章程トス。其開墾、水利、  
 養蚕、種藝ノ起事開業。物産、工作等ノ事ニ関シ  
 テ。府藩縣ノ人民具官廳ノ書ヲ齎ラヌヲ要  
 セス。綴マ、ニ建白スルヲ許シ。盛ニニ殖産興  
 益ノ事ヲ督励ス。開墾局ヲ置キ。五月修船場ヲ  
 設ケ。三年蚕種ノ規則ヲ定メ。三年牧畜ノ方法  
 ヲ設ケル。四年等ヨリ。乃チ鐵道ヲ東京横濱間  
 ニ布キ。電線ヲ東京長崎間ニ架スル。鑛山燈臺  
 ノ事業ニ至ルマテ。概シテ本省ノ時ニ始マレ  
 リ。維新ノ後一時ニ邦國文明ノ姿態ヲ形成セ

ル者ハ此際ヨリス。然ルニ四年七月廢藩、時ニ至リ。集權ノ方ニ急務タルヲ以テ。權力ノ分ル、ヲ便ナラストシ。因リテ竟ニ民部省ヲ廢シ。具事務復タ大藏ノ一省ニ屬セリ。六年十一月ニ至リテ。更ニ本省ヲ建テ。外務省ノ次大藏省ノ上ニ列シ。以テ遙カニ民部省ノ後ヲ承續ス。其趣旨專ラ内治ヲ整ヘ。國力ヲ養ヒ。徒ニ虚文ヲ内ニ講セス。奇功ヲ外ニ求メス。漸ク國產ヲ繁殖シ。民業ヲ振興セントスルニ在リ。是ヨリ先キ。全權大副使歐洲ニ歴聘シ。大ニ外邦ノ

實況ニ鑒スル所アリ。頗ル輕進ノ非ヲ悟ル。其帰朝ニ際シ。恰モ急進ノ政策遠征ノ廟議一決スルニ會シ。其意料ト全ク相及ス。是ニ於テ遂ニ英断ヲ宸裁ニ仰キ。此ニ内閣ノ組織ヲ一變シ。專ラカヲ根本ニ用ユルノ廟謨ヲ定メ。主トシテ本省ノ設ケアリ。大ニ保利通。參議ヲ以テ本省卿ニ兼任ス。翌七年ニ至リ。始メテ職制章程ヲ定メ。戶籍人口ノ調査。人民産業ノ勸奨。地方ノ警備。及ヒ土木地理驛通測量等ノ諸事ヲ總管ス。是ニ於テ。戶籍驛通土木三寮ヲ大藏省



ヨリ。警保寮ヲ司法省ヨリ。測量司ヲ工部省ヨリ分割シ。之ヲ本省ニ屬シ。更ニ勸業、地理ニ寮ヲ創置ス。尋テ記録、庶務ニ課ヲ置ク。是ヲ建省ニ次テ設クル所ノ局課即チ本省初年ノ組織トス。爾來局課ノ分合、事務ノ轉換、亦一ニレテ足ラス。是年七月。始テ外務省ノ管セル琉球藩事務ヲ受ケテ之ヲ管ス。藩治ハ元來内政ノ一タルヲ以テ。既ニ本省ノ設ケアレハ之ヲ管領スル固ヨリ其所トス。八月。測量司ヲ廢シテ其事務ヲ地理寮ニ併セ。同月。正院地誌課ヲ受

ケテ地理寮ニ合ス。後復々同院ニ屬スルモ。後年ニ至リ。二十年全ク本省ニ歸ス。然ルニ本年ハ佐賀、臺灣ノ役アリ。本省ノ卿常ニ外ニ在ルヲ以テ。當初建省ノ目的ハ。實ニ未タ施行スルニ及ハス。故ニ本省事務ノ稍結ニ就キタルハ。八年以後ニ於テ之ヲ見ルヘシ。八年三月。地租改正事務局ヲ。内務、大藏、西省ノ間ニ置キ。本省ノ卿具總裁ニ任ス。然レトモ本局ノ事務元ト大藏省ニ起リ。殘務亦同省之ヲ管ス。故ニ其詳細ハ此ニ載ヒス。是月。又各地方勅封寶物ヲ管シ。

尋テ正院博覽會事務局ヲ受ケテ。博物館ト稱  
シ。又米國貴府博覽會ノ事務局ヲ管ス。勸業ノ事  
務漸ク張ル。六月。陸軍省ノ管セル銃砲彈藥取  
締事務局ヲ受ケテ之ヲ管ス。警察ノ法定マールノ  
漸ク。衛生准刻ノ事務局。文部省ヨリ之ヲ受  
ク。管務ノ分畫ヲ明ニスル所以。九月。圖書寮ヲ  
置キ。准刻事務局ヲ擴張ス。十一月。本省職制章程  
ヲ改正シ。國內安寧人民保護ノ事務局ヲ掌リ。勸  
業驛通、戶籍、警保、土木、地理、圖書ノ七寮ヲ以テ  
其事務局ヲ分掌セシム。九年一月。庶務、翻譯、用度

主計四課、衛生局、博物館、並ニ職務、往復、二掛及  
ヒ御輔附書記ヲ改設ス。二月。監倉事務局ヲ司法  
省ヨリ。編曆事務局ヲ文部省ヨリ。並ニ之ヲ受ク。  
三月。小笠原島事務局ヲ置キ。司藥場ヲ横濱港ニ  
設ク。四月。郵便局ヲ清國上海ニ設置ス。是月。戶  
籍、警保、圖書三寮ヲ廢シ。翌五月。局課ヲ改置シ。  
内局、戶籍、警保、圖書、博物、庶務五局。及ヒ會計、往  
復二課ヲ設ク。尋テ勸業寮中商務ヲ割テ勸商  
局ヲ置キ。六月。警察官吏ヲ琉球藩ニ派在セシ  
ム。同月。東北巡幸ノ盛典ヲ舉行シ。本省御實ニ

之ヲ先導ヲ為セリ。七月。遂ニ内國勸業博覽會  
事務局ヲ設ケ。明年開會ノ準備ヲ為スニ至ル。  
八月。京都司藥場ヲ長崎港ニ移シ。又授産局ヲ  
置ク。八九四年、間ニ於テ。本省事務ノ擴張セ  
ル實ニ勃然タルモ、アリ。十年一月。警視廳ヲ  
廢シ。省中警視官ヲ置キ。警保局ヲ廢ス。又舊教  
部省事務ヲ受ケテ。社寺局ヲ省中ニ設クル等  
ハ。皆主トシテ經費ノ節減ニ原ケリ。蓋シ教部  
省ハ。神祇省ヲ廢シテ置ク所。神祇省ハ。元年正  
月三職分科ノ一ニ在リテ神祇事務科ト曰ク。

尋テ事務局ト為リ。又神祇官ト為リ。神祇祭祀  
祝部神戶ノ事ヲ管ス。後更ニ太政官ノ上ニ列  
シ。伯副佑史等ノ官ヲ置キ。又宣教使ヲ管シ。專  
ラ大教ヲ宣布シ。祭政一致。報本及始ノ義ヲ知  
ラシメントス。四年五月。又神官ヲ管シ。始テ  
其職負ヲ定ム。八月。省トナリ太政官ノ次ニ降  
ル。五年三月。更ニ宗教ヲ統同シ。異端ヲ排斥ス  
ルノ目的ヲ以テ。祭政一致ノ主旨ヲ布衍シテ。  
政教一致ノ義ヲ包括シ。此ニ教部省ヲ建テ。神  
祇省ヲ廢ス。是ヨリ社寺及ヒ教義一切ノ事ハ。

教部省、所管ト為リ。祭事祀典ハ、式部寮、所  
管トシ。其四月。始メテ教導職ヲ置キ。神官僧  
侶ヨ以ラ之ニ補シ。教部省之ヲ管セリ。爾後漸  
ク信教、檢束シ難キヲ認メ。頗ル教部、衙門  
ヲ要セリルヲ議スルニ至ル。遂ニ本年ヲ以テ  
之ヲ廢シ。神官教導職共ニ社寺局ノ管ユル所  
ト為レリ。尋テ又局課ヲ改置シ。勸農、驛遞、警視  
地理、土木、社寺、六局ト為シ。會計課ヲ改メ會  
計局ト為シ。翻譯課ヲ廢スル等ハ。主トシテ諸  
寮ノ廢スルニ由ル。三月。海軍所管國內西

洋形船舶普通信務、事務ヲ受ケテ之ヲ管  
ス。驛遞運輸、法備ハリ。管船事務、整理セル  
所以。十一年一月。駒場野農學校ヲ開キ。二月博  
覽會掛ヲ置ク。又陵墓事務ヲ以テ宮内省ニ屬  
シ。其六月。御陵墓地ヲ同省、所轄ト為ス。九月  
取調局ヲ置ク。十月。横須賀製鐵所ヲ海軍省ニ  
屬ス。十二月。勸商事務ヲ大藏省ニ屬シ。勸商局  
ヲ廢ス。十二年四月。始メテ宮城東京集治監ヲ  
置ク。監獄ノ制是ヨリ備ハル。五月。山林局ヲ置  
キ。官林事務ヲ管セシム。六月。巡查教習所ヲ設

七月、監獄局ヲ置キ。囚獄懲役等、事務ヲ管  
 ス。是月始メテ中央衛生會ヲ開ク。九月、生糸繭  
 茶共進會ヲ横濱ニ開キ。十三年二月、又綿糖共  
 進會ヲ大坂ニ開ク。蓋シ共進會、始メタリ。勸  
 業、法益進ム。六月、消防中隊部ヲ東京府下各  
 所ニ設ケ消防卒ヲ置ク。十二月、職制ヲ改メ、内  
 局及ヒ警視、勸農、驛遞、地理、戶籍、社寺、土木、衛生、  
 圖書、博物、會計、庶務、取調、十四局トス。現今ノ  
 制概シテ之ニ仍ル。十四年一月、復テ警視廳ヲ  
 置キ、省中警視官ヲ廢ス。四月、農商務省、建設

二由リ、驛遞、山林、博物三局及ヒ博物館ヲ以テ  
 之ニ屬シ、又勸農局ヲ廢シ、其事務農學校ト共  
 ニ同省ニ屬ス。八月、登記法取調掛ヲ置キ。十一  
 月ニ至リテ、記簿法取調局ト改ム。十五年一月、  
 統計課ヲ置ク。七月、石油試験取調委員局ヲ開  
 設シ、又東京檢疫局ヲ設ク。此二局ハ、幾モナク  
 皆廢ス。八月、皇典講究所ヲ設ク。此時、政秩序ヲ  
 重ニスルノ說、盛ニ起リ、從來銳進ノ方圖、大  
 ニ之ヲ改メ、專ラ古今沿革、由ル所ヲ調査セ  
 ントス。本所、設ケ其一班ヲリ、以上建省以來

官職ニ係ル沿革ノ大畧トス。以テ今ニ至ル。  
 此ニ本省長官ノ沿革ヲ記スルニ先チ内國事務科、時ニ湖。其長官ヲ序レ以テ本省ニ及ハレトス。元年正月。正親町三條實愛、徳大寺實則、松平慶永、山田豊信、嘉言親王、溥ニ内國事務総督ニ任ス。事務局トナルニ及ンテ。徳大寺實則獨リ督ニ任ス。民部官ノ時。蜂須賀茂昭、松平慶永相次テ知事ニ任ス。民部省トナルニ及ンテ。松平慶永亦其卿ニ任ス。伊達宗城、大木喬任相次テ之ニ代ル。本省創建ノ日。大久保利通始

メテ卿ニ任ス。佐賀、役利通其賊ヲ鎮撫ス。其間木戸孝允、伊藤博文相次テ兼攝ス。後伊藤博文、松方正義、山田顯義相次テ卿ニ任ス。以テ今ニ至ル。  
 集治監ハ。徒刑流刑及ヒ禁獄、刑ニ處ヒラレタル者ヲ集治スルノ所トス。典獄、副典獄、書記、省守長、省守ヲ置ク。典獄ハ。内務卿、指揮ヲ受ケ。書記省守長以下ヲ統率レ。監署ノ事務ヲ總理シ。判任官、進退黜陟ハ。内務卿ニ具状シ。等外吏及ヒ備負、進退黜陟ハ之ヲ專行ス。副典



刑部  
監獄  
職制

獄。掌典獄ニ世ク。書記ハ各具主務ニ従事ス。  
省守長。監獄ノ戒護ヲ掌リ。兼テ省守ノ勤惰  
ヲ視察ス。省守ハ監獄ノ戒護ニ従事ス。是レ本  
監現今ノ職制ナリ。  
水監ハ。十二年四月始メテ宮城ニ設ケ。尋テ東  
京ニ設ケ。獄司、書記、守長、監守ヲ置ク。十四年三  
月。獄司以下ヲ廢シ。今ノ職責ヲ置ク。典獄ハ奏  
任ノ官トシ。以下ヲ判任トス。別ニ等級ヲ設ケ  
ス。皆俸給ヲ以テ之ヲ分ツ。八月樺太ニ設ケ。十  
五年六月又空知ニ設ク。八月司獄官吏ヲシテ

空知集治監囚人ノ輕罪以下ヲ犯セルハ其裁  
判事務ヲ掌ラシム。凡リ監獄ハ六種ニ分ツ。本  
監具一トス。即チ拘置場、監倉、懲治場、拘留場及  
ヒ集治監是ナリ。而シテ集治監ハ。特リ適當ノ  
地ニ置キ。餘ハ皆毎府縣ニ置ク者トス。  
警視廳。東京府下警察事務ヲ總理シ。消防隊  
及ク監獄ヲ管轄シ。内局、會計局、第一局、第二局、  
巡查本部、警察署、消防本署、監獄署ヲ設ケ。各具  
事務ヲ幹理セシム。警視總監ハ。内務卿ノ管轄  
ニ屬シ。警視以下ノ諸員ヲ統督シ。府下郡區長

大正  
文  
部  
省

戸長ヲ指揮シ。警察事務ヲ總管ス。廳中奏任官ノ進退黜陟ハ。内務卿ニ具申シ。判任以下ハ之ヲ專行ス。各省卿權内ノ警察事務ニ関シテハ直ニ具命令ヲ受ケ。又國事警察ニ関シテハ直ニ大臣參議ノ命令ヲ受クルコトアリ。副總監ハ總監ノ職掌ヲ輔ク。總監事故アルトキハ具代理タルヲ得。一等ヨリ五等ニ至ル。警視ハ皆總監ノ命ヲ受ケ。各其主務ヲ幹ス。警視属ハ各其庶務ニ従事ス。巡查總監ハ總監ノ命ヲ受ケ。方面監督以下ヲ指揮シ。警邏查察ノ事ヲ幹ス。巡查副

總監ハ。總監ノ職掌ヲ助ケ。總監事故アルトキハ其代理タルヲ得。方面監督ハ。總監ノ命ヲ受ケ。各方面巡查長以下ノ掌務ヲ監督ス。巡查長ハ。總監ノ命ヲ受ケ。巡查部長以下ヲ指揮シ。警邏查察ノ事ヲ掌ル。巡查副長ハ。掌、巡查長ニ亞ク。巡查部長ハ。巡查長ノ命ヲ受ケ。巡查ヲ指揮シ。警邏查察ニ従事ス。一等ニ等警察使ハ。總監ノ命ヲ受ケ。警戒按察初ノ撫察ニ作ルノ事務ヲ掌ル。警察副使ハ。掌警察使ニ亞ク。書記ハ。警察使ノ

命ヲ受ケ署中ノ庶務ヲ掌ル。消防司令長。総  
 監ノ命ヲ受ケ本署諸屬負テ監督指揮シ。火災  
 消防ノ事ヲ幹ス。消防司令副長。司令長ノ職  
 掌ヲ助ケ。司令長事故アルトキハ其代理タル  
 ヲ得。初ノ掌、司令長  
 並ク作ル消防大司令。司令長ノ命  
 ヲ受ケ消防隊ヲ監督指揮ス。消防中司令。大  
 司令ノ命ヲ受ケ消防分隊ヲ監督指揮ス。消防  
 少司令。中司令ノ命ヲ受ケ消防手ノ部伍ヲ  
 監督指揮ス。典獄。総監ノ命ヲ受ケ未決已決  
 各囚監獄ヲ管掌シ。書記。看守長以下ノ諸負ヲ

監督ス。副典獄。典獄ノ職掌ヲ助ケ。典獄事故  
 アルトキハ其代理タルヲ得。初ノ掌、典獄ニ書  
 並ク作ル記。典獄ノ命ヲ受ケ署中ノ庶務ヲ掌ル。看守  
 長。典獄ノ命ヲ受ケ看守ヲ指揮シ。監獄ヲ看  
 守ス。看守副長。掌看守長ニ並ク。看守。監獄  
 ノ看守ニ後事ス。是ヲ現今ノ職制トス。

蓋シ府下警保ノ事ニ関シテハ。維新ノ際未ダ  
 一定ノ制アラズ。元年四月。舊江戸町奉行石川  
 利政、佐久間信義ヲ以テ假リニ市中取締ト為  
 ス。後、田安慶頼、大久保忠寛、勝義、邦等亦命ヲ受

ク。二年三月。府内ノ諸藩邸ヲシテ邏所ヲ置カ  
シムル。舊辻番所ノ如クス。十一月。假リニ兵部  
省ノ兵士ヲ以テ府下ノ警備ニ充テ。本府具約  
束卿令賞罰等ヲ掌ル。當時兵燹ノ餘。殺伐ノ習  
氣猶存ス。劫掠歐鬪比々踵ヲ接シ。或ハ爛醉放  
歌。市街ヲ横行シ。頗ル蠻野ノ陋俗ニ類スル者  
アリ。加フルニ火災ノ多キ。日夜數回ニ及ク。居  
民殆ト具生ヲ聊セス。因リテ四年十月ヲ以テ。  
本府ヲシテ邏卒三千人ヲ徵集セシメ。始メテ  
民人保護ノ職ニ備フ。是ヲ東京警視ノ嚆矢ト

ス。五年八月。司法省中警保寮ヲ置キ。邏卒ヲ以  
テ之ニ屬ス。是ヨリ警保事務總テ同省ノ管ス  
ル所ト為ル。寮中更ニ警視警部巡查等ノ職ヲ  
置キ。全國ノ警察事務ヲ總提セントスルニ至  
ル。警視以下ノ職名此ニ始メル。六年十一月内  
務省ノ設ケアリ。翌七年一月具職制ヲ定ムル  
ニ當リ。本寮ヲ擧ケテ悉ク同省ニ屬ス。是ニ於  
テ。同月始メテ本廳ヲ建テ。益々其事務ヲ擴張ス。  
警視長。正權大少警視。警部。巡查ヲ置ク。此時巡  
査六千人アリ。甲乙丙ニ部署シ。九十六屯所  
皆後

署トヲ置キ。大分廳之ヲ分轄ス。十月。警視長ヲ  
廢シ。大警視ヲ以テ之ニ代フ。蓋シ長ノ字、廳ト  
首ヲ同フシ。且ツ本官ノ總轄。内務卿ニ在リ  
テ。長ノ字ニ嫌アルヲ以テ之ヲ改ム。其十二月。  
警部補ヲ置ク。八年十二月。東京府所轄囚獄及  
ト懲役場事務ヲ受ケテ之ヲ管ス。九年一月。賣  
淫取締懲罰事務ヲ管ス。十月。東京府ノ事務警  
察ニ係ル諸項ヲ管ス。十年一月。本廳ヲ廢シ。事  
務ヲ内務省ニ屬シ。警視官ヲ省中ニ置ク。因リ  
テ警視本署ヲ東京八重洲町ニ設ケ。府下警察

事務ヲ直管執行ス。又從來ノ各署ヲ改メテ分  
署ト稱ス。此時始メテ警視屬ヲ置ク。諸省ノ屬  
ト同シ。十一年三月。大警部以下ヲ廢シ。更ニ警  
視補、警部、警部補、警部試補ヲ置ク。但警視補ハ  
二等ニ分テ。ハ等九等ニ相當シ。持ニ奏任トス。  
是月。東京警視本署ヲシテ伊豆國八丈島以下  
七島警察事務ヲ管セシム。十二年十月。伊豆國  
大島出張警部ヲシテ七島ノ刑事裁判事務ヲ  
管セシム。十三年五月。始メテ消防部職負ヲ定  
ム。消防本部長、同副長、司令長、一等ヨリ五等ニ

至ル。司令及ヒ傳令司、嚮導、伍長、消火卒ヲ置ク。  
三等司令以上ハ警視補以上ノ官之ニ充ツ。四  
等司令以下傳令司以上ハ警部試補以上之ニ  
充ツ。嚮導以下ハ傭負トス。十四年一月、再々本  
廳ヲ置クニ至リ更ニ之ヲ改メ、且ツ警視總監  
以下ハ職ヲ置キ、今ノ制トス。是月、警察署及ヒ  
巡查屯所等、配置ヲ定ム。二月、大島警視出張  
所ヲ廢シ、七島戸長ヲシテ警察事務ヲ兼行セ  
シム。三月、第一ヨリ第五ニ至ル方面警察署ヲ  
改定シテ、所轄區域ヲ定ム。是月、監署書記着守

以下、分掌例ヲ定メ、又司獄官吏及ヒ傭人設  
置程度ヲ定ム。六月、消防隊ヲ廢シ七月、第一ヨ  
リ第六ニ至ル消防分署ヲ設置ス。十月、其管轄  
方面巡查屯所及ヒ警察署二十五所ヲ改置ス。  
六月、書記局ヲ廢シ會計局ヲ置キ、又巡查長以  
下ノ俸給、並ニ警察使、及ヒ司令副長等ノ職制  
ヲ改正ス。今此制ニ仍ル。是月、各地方ヲ分畫シ  
テ四區ト為シ、警察聯合會規則ヲ定ム。七月、第  
一ヨリ第五ニ至ル警察方面ノ名稱ヲ廢ス。現



今部署、配置。警察署巡查屯所各二十六所  
ニシテ。水上警察、水上巡查屯所。各一所、其中  
ニ在リ。消防分署六所。監獄署三所トス。

大藏省。全國財政ニ関スル事務ヲ管理スルノ  
所トス。書記、議業、租税、関税、國債、出納、造幣、印刷、  
記録、調査、銀行、庶務、會計ノ十三局ヲ置キ。各其  
主務ヲ幹理セシメ。又各港税関ヲ管ス。卿輔書  
記官屬官ヲ置ク。諸省ト同シ。  
書記局。卿輔官房、事務ヲ辦理シ。書記官若  
干名ヲ以テ局員トシ。其樞密ノ文書ヲ管シ。又

職負ノ事件ニ関スル文書ヲ掌リ。議案局。財  
政ニ関スル法律規則ヲ審査スルノ所トス。租  
税局。内地租税ニ関スル一切、事務ヲ掌リ。  
関税局。海関税一切ノ事務ヲ掌ル。國債局。  
内外國債ノ償還、貸與金、交收、準備金、起業金。  
外國費金ニ関スル事務ヲ掌リ。出納局。國庫  
現金ノ出納及ヒ官金ノ管守、損傷紙幣交換ノ  
事ヲ掌リ。造幣局。貨幣鑄造一切ノ事ヲ掌リ。  
其工場ヲ管ス。印刷局。紙幣及ヒ公債証書、印  
紙、券狀等ヲ製造シ。之カ贋造豫防ヲ負擔シ。又

布告達類、印刷、事ヲ掌リ。其工場ヲ管ス。記録  
 局ハ。國庫出納ノ傳票。各紙幣及ヒ公債証書ヲ  
 照査証印シ。諸公文簿冊ヲ徵收シ。及ヒ書籍米  
 輯ノ事ヲ掌ル。調査局ハ。歲計ノ豫算決算ヲ調  
 成シ。法規ニ照シテ國庫ノ出納ヲ查定シ。臨時  
 收支ノ當否ヲ審案シ。及ヒ地方税ノ豫算精算  
 ヲ監査スル等ノ事ヲ掌ル。銀行局ハ。諸銀行及  
 ヒ銀行類似ノ會社ヲ掌管監督シ。庶務局ハ。各  
 局ノ掌管ニ屬セラル事務ヲ掌理ス。會計局ハ。  
 省中一切ノ會計ヲ掌管シ。本省所屬ノ地所家

屋、財産物品ヲ管守雜給シ。其他省内ノ監督ニ  
 関スル事務ヲ管理ス。以上諸局。皆書記官屬官  
 及ヒ御用係備負ヲ置キ。其事務ヲ分掌セシム。  
 持リ造幣印刷ニ局ノ如キハ。專ラ技術ニ係ル  
 ヲ以テ。別ニ技術官ヲ置キ。一般官吏ト異ニシ。  
 技術官ハ。技監、技師、技手、技生トス。技監ハ工業  
 技術ヲ總監シ。技師ハ工業技術ヲ掌リ。一等ヨ  
 リ四等ニ分ツ。技手、技生ハ工業ニ役事ス。但技  
 手ハ。一等ヨリ十等ニ分ツ。技監以下ノ官等。三  
 等ヨリ十七等ニ相當シ。技生ハ。一等外ニ準ス。其

俸給ハ技能勞逸等ヲ分ツク為メ。等内ニ於テ又階級ヲ分チテ之ヲ給ス。是レヲ現時ノ制トナス。初メ五年正月。造幣寮官負奏任五等以下。皆官名ヲ廢シ。幾等出仕ト改メ。尋テ等級ヲ廢シ。俸給ヲ以テ職務ノ階級ヲ立ツ。八年九月ニ至リ。技術官ノ等級ヲ設ケ。技監以下ノ職名始メテ定マル。十年一月。更ニ大中少技師并ニ一等ヨリ十等ニ至ル技手及ヒ技生ニ改メ。終テ俸給ヲ減シ。大技師ヲ以テ技監ニ代フ。十五年五月今ノ名ニ改ム。

各港税関ハ常ニ関稅局ト氣脈ヲ通シ。九百ノ事務決シ難キ事件ハ首ヲ局長ニ請ヒ施行スルモノトス。税関長、副長、屬官、譯官、監吏、監吏補、鑑定役及ヒ見習ヲ置ク。長、副長ハ本省書記官ヲ以テ之ニ充テ。内外出入ノ租稅ヲ管理スルヲ掌ル。関中諸官負、庶務ヲ指令シ。各課ノ事ヲ幹理ス。但副長ハ事務ノ繁簡ニ依リ之ヲ置ク。其職掌長ニ亞キ。長在ラサルトキハ之ヲ代理ス。屬官ハ亦本省ノ屬之ニ充ツ。各課ノ長ニ任シ。其事務ヲ幹理ス。譯官ハ一等ヨリ七等ニ至ル

便宜之ヲ置ク。官等ハ等ヨリ十四等ニ至ル。監  
 史ハ一等ヨリ九等ニ分チ。内外人民ノ密商脱  
 税ヲ發掘スルノ事務ヲ管ス。官等ハ八等ヨリ  
 十六等ニ至ル。監吏補ハ一等ヨリ四等ニ分チ  
 等外トス。鑑定役ハ判任ニシテ月給三十圓以  
 上二百圓以下ヲ給シ。一般官吏ト異ニス。見習  
 ハ等外ニシテ十三圓以上廿三圓以下ヲ給ス。  
 是レ税関職員ノ現状ナリ。  
 初ノ各開港、開市場稅務ハ外務省之ヲ管ス。四  
 年八月。本省首ヲ候ニ逐ニ具所管ト為ス。具十

一月。職制ヲ定メ。運上所長、次長、検査長、驅使長、  
 驅使、鑑定長、鑑定人、稅額長、譯司、通辨ヲ置キ。各  
 港海外輸出入ノ租稅ヲ管理スルノ所トス。五  
 年十一月。各港運上所ヲ兼港稅関ト改メ。六年  
 一月。稅関中監吏課ヲ設ケ。監吏總長、副總長、監  
 吏長、副長、大中少監吏ヲ置ク。密商脱稅ヲ監ス。  
 是ヨリ先。運上所中視船、邏卒ニ課ヲ設ケ。尋テ  
 視船課ヲ監船課。邏卒課ヲ巡警課ト改メ。後又  
 ニ課ヲ改メ。巡警吏ト稱ス。是ニ至テ本官ニ改  
 ム。七年一月。運上所長等ヲ改置シ。稅関司長、副

司長ト稱ス。尋テ五月今ノ稱ニ改ム。十年一月。  
 又監吏ヲ改置ス。十一年十月。検査長以下外國  
 人ノ使用ヲ減スルノ目的ヲ以テ。更ニ鑑定役  
 以下ヲ置キ。具等級ニ拘ハラス。其俸給ヲ優ニ  
 ス。以テ今ニ至ル。以上各局ト税関トヲ以テ。本  
 省組織ノ梗概ト為ス。

蓋シ大藏省ノ名ハ。一千三百餘年前欽明帝ノ  
 朝既ニ之リ。大寶新令ヲ制シ。之ヲ八省ノ第  
 七位ニ置ト。宮内省ノ上ニ序ツ。抑上代世淳ニ  
 事簡ニ。國用自ラ贍ルノ時。必シモ財政ヲ説ク

ス。人文漸ク関クルニ至リテハ。理財ノ道實ニ  
 經國ノ要務ト人。人心ノ離合。風俗ノ美惡。焉ニ  
 繫ル。之ヲ管理スルノ法。尤モ慎重ヲ要スヘシ。  
 然ルニ幕府ノ時。僅ニ勘定奉行ノ小吏ヲ以テ。  
 金穀出納ノ事ヲ管セシ。未ダ曾テ一定ノ會  
 計法アラス。列藩亦其風ニ倣ヒ。錢穀ノ任視ヲ  
 卑賤ノ業ト為シ。大抵之ヲ小吏ニ託シ。曾テ出  
 納ノ利害。収支ノ得失。全クニ注目スル者無シ。  
 幕府末路ニ至リテハ。用度節無ク。錯誤亦甚シ。  
 屢新貨ヲ鑄造シテ。府庫愈々空ク。外ハ債ヲ各

國に負ひ。内ハ私鑄ノ弊ニ堪ヘス。殆ント救濟ニ由無シ。大政ノ朝ニ歸スル。實ニ其疲弊ノ極ニ際ス。故ニ中興ノ政家モ難シスル所ノ者ハ。外交ト財政トニ在リ。而レテ其責任復々昔時ノ大藏省ニ非ス。故ニ本省ヲ以テ特ニ内務省ノ次陸海軍省ノ上ニ班シ。以テ重要ノ地タルヲ明クニス。其旨深シ。

本省ハ。慶應三年丁卯十二月。金穀出納所ヲ學習院ニ設クルヲ濫觴トス。參與假リニ其事務ヲ提掌セリ。明治元年正月。會計事務科トナリ。

三職分科ノ一ニ居ル。尋テ會計裁判所ヲ金穀出納所中ニ置ク。會計事務ニ関スル事項ハ。都ラ本所ニ稟申セシム。二月。會計事務局トナルニ至テ。金穀出納所ヲ併セテ之ヲ廢ス。此時始メテ職制ヲ定ム。戸口賦税、金穀、用度、貢獻、營繕、秩祿、倉庫及ヒ商法ノ事ヲ管ス。尋テ銅會所ヲ大坂ニ設ク。閏四月。會計事務局ヲ廢シ。會計官ヲ建テ。出納、用度、驛遞、營繕、稅銀、貨幣、民政七司ヲ管ス。稅銀、民政ニ司ハ。閏局ニ及ハス。尋テ商法司、租稅司ヲ置ク。七月。銅會所ヲ改メ。鑛山司



ト稱シ。金銀銅ノ諸鑛物ヲ權買ス。八月。東京鎮  
 將府ニ屬スル民政裁判所ヲ改メ。本官ニ屬シ。  
 會計局ト稱ス。十月。鎮將府廢スルニ由リ。又會  
 計官出張所ト改稱ス。二年二月。貨幣司ヲ廢ス。  
 太政官中造幣局ヲ設クルニ由ル。三月。商法司  
 ヲ廢ス。而シテ通商司ノ設ケ之ニ代ル。四月。本官  
 ヲ東京ニ移スニ至リ。會計官出張所ヲ廢ス。五  
 月。會計官職制條令ヲ定ム。租税、用度、秩祿、貢獻  
 金銀貨幣、倉庫、檢地、管繕、鑛山等ヲ總判スルヲ  
 掌リ。造幣局及ヒ監督、租税、出納、用度、管繕、鑛山

ノ六司ヲ管ス。民部官、建設ニ由リ。其管務ヲ  
 分割セルナリ。尋テ外務省ヨリ通商司ヲ受ケ  
 テ之ヲ管シ。吏員ヲ京坂二府及ヒ神奈川縣ニ  
 分遣シ。又數條ノ權限ヲ本司ニ委任シ。地方官  
 ニ協議シテ。便宜具事務ヲ行ハシム。朝廷ノ盛  
 ニ商業ニ干涉スル此時ヨリ始マル。七月。官制  
 ノ改定ニ因リ會計官ヲ廢シ。始メテ大藏省ノ  
 名ヲ復ス。是ニ於テ造幣局ハ察トナリ。更ニ出  
 納、租税、監督、通商、鑛山ノ五司ヲ置ク。八月。租税  
 監督、通商、鑛山ノ四司ヲ民部省ニ屬シ。尋テ同

省ト併合ス。内沼ト財政ト混同スル、始トス。  
三年七月。復々分省シ。更ニ造幣寮、出納、用度、管  
繕、租税、監督、五司。及々度量衡改正掛ヲ管ス。  
始メテ三器ノ改正ニ着手ス。其分省ハ。彈正臺  
併合、弊ヲ痛論セシニ原ク。又民部省中ノ通  
商司ヲ管ス。八月。民部大藏兩省ノ事務ヲ定メ。  
本省更ニ歳入、歳出、経費用度、租税備、貨幣、楮幣、  
度量衡、蓄積、通商、輸漕、貢献品ノ領收、管繕倉庫  
金穀ノ賞賜、官祿秩祿ノ發給。凡百費用ノ支出。  
國債及々賑濟米金ノ發給。金穀貸附ノ諸項ヲ

管ス。四年七月。通商司ヲ廢シ。本省具事務ヲ直  
管ス。又諸司ヲ廢シ。租税寮及勸業、統計、紙幣、戶  
籍、驛遞五司ヲ置ク。民部省廢スルニ由ル。是ニ  
於テ。内政復理財ノ廳ニ合ス。八月。造幣、租税、戶  
籍、管繕、紙幣、出納、統計、検査、記録、驛遞、勸業、十  
一寮。及々正笑司ヲ改置ス。官制ノ更定ニ由ル。  
尋テ勸業寮ヲ改メ。勸農寮ト稱ス。是月。外務省  
所管各開港、開市場、稅務ヲ管ス。九月。聽訟事務  
ヲ司法省ニ屬ス。前々ニ民部省ヨリ轉屬スル  
所。又管繕寮ヲシテ工部省ノ橋梁事務ヲ管セ

十月。吏ニ管繕寮ヲ廢シ。工部省ノ土木寮  
 ヲ本省ニ屬ス。五年七月。租稅寮中地租改正局  
 ヲ設ク。九月。官吏ヲ琉球藩ニ派在セシム。新夕  
 ニ藩王ヲ冊封セシニ由ル。十月。勸農寮正業司  
 ヲ廢ス。十一月。各港運上所ヲ改メ。泉港税関ト  
 稱ス。翌年一月。始メテ税関監吏課ヲ設ク。二月。  
 土木寮藝負等級ヲ定ム。土木ノ事務ハ概テ技  
 術ニ関スルニ依リ。其所長ヲ以テ主務ヲ分ク。  
 因テ各負獎勵ノ道ヲ開カンク為メ。特ニ等級  
 月給ヲ設ケ。技術ノ上進ヲ期スト云フ。又造幣

寮ノ雇使セル外國人ノ等級ヲ定ム。従来位階  
 ノ別ナク。服制等本寮ノ定則ニ據ラシムルコ  
 ト能ハス。一般ノ權衡ニ害アルヲ以テ。更ニ幾  
 等心得ヲ以テ命スルノ制トス。七月。國債寮ヲ  
 置ク。内外國債償還紙幣支消ノ方法ヲ詳ニシ。  
 金貨楮幣流通ノ景況ニ從ヒ。平準ナラシムル  
 ノ策ヲ設ケ。公債証書運轉ノ形状ニ應ヒ。合宜  
 ノ法ヲ立ツル等ノ事務ヲ管理セシム。尋テ負  
 債取調掛ヲ廢シ。其事務ノ屬ス。八月。郵便取扱  
 人ヲ改メ。取扱役ト稱シ。十三等以下ニ準ス。郵

便局署、建築。吏負、派在等。創業、際費用夥多。レテ得失償、難キヲ以テ。姑、各地居民ニ就テ之ヲ撰。其居室ヲ以テ局署ニ充ツ。七年一月。戸籍、土木、驛遞三寮及、租税寮中地理勸農、事務ヲ内務省ニ属ス。維新以来内治ト財政トノ區分一定セラル者。此ニ至リテ始メテ明劃ス。是月。始、テ税関職制ヲ定ム。税関ノ事務漸ノ整理ニ就ク。十二月。勸查局ヲ置キ小野組鎖店ニ係ル事務ヲ覆解セシム。八年三月。地租改正事務局ヲ置キ。内務省ト共ニ之ヲ管

レ。地租改正ニ関スル一切ノ事務ヲ掌管ス。總裁以下ノ職負ヲ置キ。各其主務ヲ管セシム。總裁。内務卿大久保利通之ニ任レ。本省卿大隈重信ヲ以テ御用掛トナシ。初ノ廢藩置縣ノ後。本省税法改革ノ議ヲ起レ。地價ニ隨テ税ヲ賦スルノ法案ヲ定メ。四年十二月。始、テ沽券税法ヲ東京市街ニ行フ。尋テ租税寮中地租改正局ヲ設ク。漸次其事務ヲ整理ス。本省地方官ヲ會同スルニ當リ。四年其改正法案ヲ議セシム。後遂ニ上諭ヲ以テ地租改正法ヲ全國ニ頒布

七ラ。是ニ至リ。西省其事務ノ互ニ交渉スル  
 ヲ以テ共ニ議ヲ献シ。本局ヲ西間ニ創置ス。中  
 古以降封土分裂ノ餘弊ヲ受ケ。田制紊乱。租法  
 錯雜。後ノ一受ノ紀律アラズ。此改正アリテ後  
 公平平均一ノ法始テ定マル。七月。舊蕃地事務局  
 ノ<sup>太政官</sup>設クル所。残務ヲ管理ス。八月。函館税関事務  
 ヲ租税寮ニ屬ス。新瀉ハ翌九月。夷港ハ翌十月  
 ヲ以テス。九月。正院印書局ヲ受ケテ紙幣寮ニ  
 屬シ。活版局ト改ム。始テ造幣寮技術等級ヲ  
 定ム。又出納寮中納金局ヲ設ク。初メ納金ノ法

総テ現貨ヲ第一国立銀行ニ納シ。其証券ヲ以  
 テ納入スルノ順序ナリ。是ニ至リ。此局ヲ以テ  
 銀行ニ代フ。後現金納拂局ト改ム。抄紙局ヲ王  
 子村ニ設ク。紙幣寮ノ所管トシ。紙幣公債証書  
 等。賈造豫防ノ目的ヲ以テ其原紙ヲ製造セシ  
 ム。後抄紙部ト改稱ス。十二月。職制章程ノ改正  
 シ。全國ノ理財ヲ掌リ。其事務ヲ支分シテ。租税  
 造幣。紙幣。出納。統計。検査。國債。記録。八寮トス  
 此時卿ノ職。歳入出ヲ統轄シ。大小ノ財務ヲ統  
 理スルノ制ナリ。十年一月。各省諸寮ヲ廢スル

因リ。租税、関税、検査、國債、出納、造幣、紙幣、常平、  
 記録、九局ヲ改置シ。且、郷輔官房ヲ本局トシ。  
 附屬、分課ヲ定メ。議案、傳票、銀行、受付、統計、翻  
 譯、用度、七課トス。十一年七月、常平局ヲ開キ。  
 出納局所管中米穀ニ関スル諸務ヲ同局ニ屬  
 ス。米穀ヲ糶糶シ。其價格ヲ平準シ。及、備流儲蓄  
 法ニ関スル事務ヲ管セシム。因リテ大坂、難波  
 米廩ヲ以テ本局ノ出張所トナス。尋テ兵庫、長  
 崎、石、卷、赤間、関、下ノ関、四日市、坂井、伏水、若津  
 等ニ米廩ヲ設ク。蓋シ米價騰貴スルトキハ内

國ニ糶賣シ。其低落スルトキハ外國ニ輸出シ。  
 常ニ内外物價ノ景況ヲ察識シ。聚散ノ機ニ投  
 スルヲ期スル者トス。八月、太政官所管征討費  
 総理事務局ヲ本省中ニ移ス。西南征討諸費ヲ  
 完結スルキ為メ。十二月、紙幣局ヲ改メ、印  
 刷局ト稱ス。初メ、紙幣寮ノ時。紙幣公債証書類  
 ヲ製造スルノ外。其出納交換。及、發行支消諸  
 銀行ノ興廢。公債準備ノ顛末ニ至ルマテ。皆其  
 所管クリ。六年七月、國債寮ノ設ケアリテヨリ。  
 公債準備及、發行支消等皆之ニ屬シ。銀行課



ヲ設ケ。銀行ノ事務ヲ附シ。出納交換ノ事務ハ。出納局ニ屬ス。本寮管スル所。僅ニ紙幣証券等印刷製造ノ一部ニ止マル。然レトモ其工業ハ。日々ニ盛大ニ赴ク。此際紙幣局ノ名ヲ存スルハ。或ハ紙幣浪製ノ惑ヲ生セシメ。且ツ國債濫殖ノ嫌アリ。是ニ於テ。其名ヲ改メ其實ヲ示スト云フ。是月。内務省ノ管セル勸商事務ヲ本省ニ屬ス。翌十二年一月。始メテ商務局ヲ置キ。關稅局ノ次ニ列ス。五月。火災保險事務調査ノ負ヲ置ク。獨逸聯邦ノ類例ニ倣テ。本省吏負若干

名ヲシテ之ヲ擔當セシメ。又獨逸人ヲ參預セシメ。内務省警視廳東京府吏負中委員ヲ出シ。商議セシム。六月。内國勸業博覽會事務局ヲ置キ。内務省ト共ニ之ヲ管ス。十二月。議案課ヲ廢シ。書記議案二局ヲ置キ。租稅局ノ上ニ列ス。十三年二月。各官廳所要ノ外國品購求規則ヲ定メ。本省具事務ヲ管ス。後外國品調度掛ヲ置ク。金貨濫出ノ弊ヲ説ク。此際ヲ甚レトス。因リテ各廳需用ノ輸入品ヲ檢束スル所アラントシ。新クニ此法ヲ設ク。然レトモ能ク實行スルニ

及ハスレテ止ム。三月。検査局ヲ廢ス。會計検査院ヲ太政官ニ設クルニ由ル。尋テ更ニ精算局ヲ置キ之ニ代フ。五月。銀行課ヲ廢シ。銀行局ヲ置キ。國債局、次ニ列ス。國立銀行、設立陸續踵ヲ接シ。其事務益更振シ。一課、能ク辦スル所ニアラス。因リテ更ニ一局ヲ設クルナリ。六月。精算局ヲ改メ調査局ト稱シ。商務局、次ニ列ス。十二月。職制ヲ改メ。書記、議案、租税、関税、商務、國債出納、造幣、印刷、常平、記録、調査、銀行、十三局ヲ以テ事務ヲ分掌セシム。今ノ制ハ概シ

テ之ニ因ル。十四年四月。商務局ヲ廢シ。其事務ヲ農商務省ニ屬ス。同省、創建ニ由ル。六月。地租改正局、殘務ヲ租税局ニ屬シ之ヲ完結セシム。又會計局ヲ設ク。各局ノ末ニ列ス。會計法ノ創定アリシニ由ル。四月。外國品調度掛ヲ廢シ。殘務ヲ報告課ニ屬ス。八月。租税局出張所ヲ増設シ。収税區畫ヲ定メ。諸税監査及領収方ヲ幹理セシム。出張所々在、地ハ。東京、大阪、名古屋、廣島、松江、岡山、高知、松山、長崎、熊本、鹿兒島、福井、新潟、長野、福島、仙臺、盛岡、秋田、青森トス。因リ

十具十月ヲ以テ。収税委員出張所ヲ廢ス。十五  
 年三月。東京箱崎町舊開拓使物産取扱所。大坂  
 敦賀派出所。北海道準備米、漁業、昆布採収資金  
 貸與等ノ事務ヲ管ス。開拓使ノ前月ヲ以テ廢  
 スルニ由ル。五月。租税局出張所ヲ東京箱崎町  
 ニ設ケ。北海道海産稅事務ヲ管ス。六月。日本銀  
 行創立事務取扱所ヲ設ケ。中央銀行ノ設立具  
 議アル久シ。此ニ至リテ頗ル其規模ヲ改メ。本  
 行ヲ五ツルニ決シ。始メテ取扱所ノ設ケアリ。  
 十一月。常平局ヲ廢シ。庶務局ヲ置キ。其事務ヲ

屬シ。銀行局ノ次ニ列ス。本省及ニ局部。十五年  
 間更革ノ概要此ノ如シ。  
 本省長官ハ。元年正月。會計事務科ノ時。岩倉具  
 視。中御門經之。淺野茂勲。西四辻公業。博經親王、  
 俱ニ總督ニ任ス。其二月。會計事務局ト為リ。中  
 御門經之督ニ任ス。閏四月。會計官ノ時。萬里小  
 路博房知官事ト為ル。二年七月。省トナルニ及  
 シテ。大隈重信始メテ大輔ニ任シ。省務ヲ攝行  
 ス。尋テ松平慶永。伊達宗城。前後民部卿ヲ以テ  
 本省卿ニ兼任ス。四年六月。大久保利通卿ニ任

ス。利通全權副使ト為リテ歐洲ニ使スルノ際。  
 井上馨大輔ヲ以テ省務ヲ攝行ス。六年六月。馨  
 職ヲ辞シ。大隈重信參議ヲ以テ本省事務總裁  
 トナル。其十月。重信卿ニ兼任ス。是ヨリ十三年  
 二月ニ至ルマテ。大隈重信常ニ卿ヲリ。是月。佐野  
 常民代リテ卿ニ任ス。參議省卿カ任ノ制トナ  
 ルニ由ル。十四年十月。松方正義參議兼大藏卿  
 ニ任シ。以テ今ニ至ル。